対談

自由民主党農林副部会長
藤木しんや 参議院議員

×

自由民主党農林部会長
宮下一郎 衆議院議員

食と農を守り 地域を元気に

農村の生活、健康を支えるJAを後押し

中山間地域農業と家族農業の重要性を訴えてきた藤木しんや議員と、中山間地農業を元気にする委員会の委員長を務め、10月に自由民主党農林部会長に就任した宮下一郎議員が、今後の農政の方向や輸出の展望、コロナ禍で苦しむ厚生連病院、JAの在り方などで対談しました。

家族経営、中山間地域農業の活性化を

藤木 農政の一丁目一番地は「中小家族経営」「中山間地域農業」であるべきです。日本の農家のほとんどが家族経営で、農地の半分が中山間地域にあり、そこをしっかり支援しなければ、日本の農業は前に進むことはできないからです。私が当選した頃の農政は規模拡大一辺倒でしたが、最近では新たな食料・農業・農村基本計画に小規模家族農業が位置付けられるなど方向性がかなり修正されてきました。

宮下 日本農業を支える基盤は中山間地域農業であり、家族農業です。食料安全保障で重要なのはもちろん、元気で美しい中山間地域は日本の魅力でもあり、絶対に失うわけにはいきません。中山間地農業を元気にする委員会の委員長として棚田〜地域振興法を成立させ、中山間地農業ルネッサンス事業を起ち上げました。インバウンド（外国人観光客）が再び活性化したときに第一番目の魅力になるのは中山間地域や日本の食だと思います。藤木議員のお力をいただきながら、食と農を守る全国の農家、JAを応援していきたいと思います。

藤木 持続可能な農業経営の実現には、他産業並みの収入を確保し、若者が就農したいと思える環境をつくることが極めて大事です。中山間地域は平たん地に比べ、大きな努力が求められます。条件が不利な中山間で頑張る農家の支援策の拡充を図っていきたいです。

輸出拡大で手取りを拡大

宮下 政府は食品の輸出額を5兆円にする目標を掲げました。世界の人口増加に伴って富裕層が増え、日本の安全・安心でおいしい農畜産物を買いたい人は増えていきます。大きな可能性があり、後継者が希望を持てるのであれば、政府が旗振り役となり、方向を示す必要があります。地域の皆さんは、広い視点で戦略を練ってマーケットインを実践することが重要です。一つの産地だけでは難しいロットの問題も、JA全農が旗振り役となり、複数産地が連携すれば応えられるでしょう。私の地元には輸出を契機に中山間地の棚田がよみがえった事例があります。いろんな知恵を使えば、輸出で農業を元気にすることができると信じています。5兆円は高い目標ですが、多くの挑戦を応援し、新たな芽をしっかり育てたいと思います。

藤木 輸出は、それ自体が目的ではなく、あくまでも手取りを増やすツールとして考えるべきです。世界の食料消費の情勢は今後、インドや東南アジアを中心に大きく変わります。輸出を成功させるには、海外マーケットの情報を収集し、ニーズに沿った農畜産物を戦略的に生産できる産地をつくる必要があります。

厚生連は地方医療の柱

宮下 農民の健康をつくる会〜の事務局長として、厚生連病院を訪問し、話を聞く活動を続けてきました。過疎化が進む地方で、人々の健康な生活を支えてくださっており、重要な役割を果たしていただいていると強く実感しています。

日本で最初に新型コロナウイルスの患者を受け入れたのも厚生連病院です。しかし、多くの人々が受診を控え、経営は非常に厳しくなりました。収入減少を支援する予算を設けましたが、まだ十分とはいえず、引き続き支援していきたいと思っています。地域医療を支える病院が持続可能な経営ができるよう、地方自治体にも支援を呼び掛けていきます。

藤木 神奈川県内のJAや厚生連病院を訪問し、厳しい経営状況をお聞きしました。コロナ患者の受け入れで先駆的な病院であるにも関わらず、風評被害に苦しみ、夏の賞与を減らさざるを得なかったと聞き、支援の必要性をあらためて認識しました。新しい病気は今後も発生する可能性があります。今回の教訓を糧に医療を支える制度をつくるべきと考えています。

総合事業の重要性 しっかりと訴える

JAの在り方は組合員が決めるべき

宮下 地元のJA上伊那は、集落営農の旗振り役として地域全体で農地を守り、有効活用しています。JAみなみ信州は、市田柿が県で初めて地理的表示（GI）に登録された産地です。農家の負担軽減のため、皮むきや乾燥、包装などをニーズに合わせて請け負うという全国のモデルとなる事業を行っています。それぞれのJAは多彩な取り組みで、地域で大きな役割を果たしています。政府目標である多核連携型の発展をめざすためには、地方の生活基盤がしっかりしていなければなりません。JAが地域の生活を支えていることを再認識する必要があります。

地域住民や移住者が准組合員になって農業を応援しようと考えた結果、准組合員比率が高まったのであれば、それは地域活性化の一つの形ともいえます。平成30年の自民党決議の通り、JAの在り方は、准組合員も含めて組合員の判断に基づいて決めていくことが大切だと考えています。

藤木 疲弊が進んでいる地域では、行政とJAが協力しなければ、地域を守れない状況にまで陥っています。JAは、営農、購買、金融・共済などに加え、利益を上げることが難しい福祉事業もやっていますし、配食サービスは高齢者の生存確認という「見守り」の側面もあります。JAの良いところは総合的に事業を行うことで、収支を合わせられることです。准組合員規制が行われてしまえばそれができなくなり、総合事業は成り立たなくなります。今後も総合事業の重要性をしっかり訴えていきますし、JAには引き続き不断の自己改革を進めていただきたいと思います。

藤木議員のリーダーシップに期待

宮下 自民党の農政の強みは、現場の声を聞き、地に足を付けた施策を展開できることです。藤木議員は、現場も農政も知り尽くしています。農家の声を拾い上げる現場力と、明るく元気に多くの人を引っ張るリーダーシップは、農業・農村・地域の活性化の原動力となります。農村を元気にし、美しい中山間地域を守るため、一緒に頑張りましょう。

藤木 ありがとうございます。宮下部会長のもと全力で頑張ります。

美しい中山間地域と食が 日本の一番の魅力